

令和3年度 第2回 健康横浜21推進会議 食育推進検討部会 議事録	
日 時	令和4年2月21日(月) 18時～20時
開催場所	横浜市役所18階共用会議室 みなと4・5
出席者	食育推進検討部会委員 13人 【集合】金子部会長、飯笹委員、井上委員、岩本委員、大久保委員、金子(勝)委員、君塚委員、望月(悟)委員、守分委員、谷中委員 【オンライン】植木委員、長島委員、望月(選)委員 <集合、オンラインともに五十音順>
開催形態	公開(傍聴者なし)
議 題	1 開会 2 あいさつ 3 議事 (1) 第2期横浜市食育推進計画における目標値の収集状況について (修正・更新) (2) 第3期健康横浜21骨子案の作成(食生活分野)及び第3期食育推進計画の策定に向けた論点整理について (3) 第2期健康横浜21最終報告書案(食生活分野)について (4) 横浜市における食環境整備の推進について 4 報告 食育推進に係る関係団体の取組状況及び課題について 5 その他 今後のスケジュールについて 6 閉会
1 開会	
2 あいさつ	
議事の構成に関する説明	(金子部会長) 本日も多くの議事を予定している。時間をかけて丁寧にご議論いただくため、次第4の報告は、資料の配布のみとする。後ほどご覧いただきたい。 では、議事の構成について、事務局からの説明をお願いします。 (事務局) 次第及び資料2に基づき、議事の構成について説明。 (金子部会長) 会議の進行上、計画策定の議事と具体的事業の議事をわかりやすく分類した。その点を委員の皆様意識してもらい、ご議論をお願いしたい。

<p>3 議事</p>	<p>【議事1】第2期横浜市食育推進計画最終評価に向けた目標値の収集状況について(修正・更新) <資料3> 事務局から資料3について説明</p>
	<p>(岩本委員) 資料3-1について、「統計的な処理ができる場合」で有意に悪化しているというCーア、「統計的な処理ができない場合」で3%以上悪化しているというCーイではどちらの方が悪いと捉えられるのか。また、Dの評価が困難という評価は、「統計的な処理ができない場合」のものどう違うのか。 (事務局) 統計的な分析が可能なものを優先的に評価として反映している。生データがなく%の値しかないものなどについては、統計的な処理が難しいため「3%以上」の変化があったかどうかを示している。基本的には、統計的な処理ができているものは全て「ア」と評価している。また、Dについては、策定前のデータがない、あるいは策定後に基準が変わっているなど、比較できないものだけを対象としている。</p>
	<p>【議事2】第3期健康横浜21骨子案の作成(食生活分野)及び第3期食育推進計画の策定に向けた論点整理について<資料4> 事務局から資料4について説明</p>
	<p>(金子部会長) 基本理念と目標の案について、質問等はあるか。 (望月(悟)委員) 市や事業者の取組例に記載のあるもののうち、離乳食に関しては、歯の生え方で食環境が違ってくる。月齢ごとに区切ったの指導などもあると思うが、個人差があるのでそれも考慮して取り組んでいかなければならない。 (君塚委員) 第3期食育計画の目標について、先ほど第2期の最終評価であったような「評価が困難」という項目が続くのは良くないと思うが、何か工夫をする予定はあるか。 (事務局) 今回、次期計画の新しい目標案についてお示しをしているが、目標の達成度合いを測る指標についてはこれからの検討事項である。おっしゃるとおり、D評価となることがないように、数値で測れる指標を今後設定したいと考えている。また、第2期計画の中でD評価としたものについては、測定できる値を設定せずともこれだけは進めたいという内容を取り入れるなど、当時の思いがあったと考えられる。今後そういった内容を指標として加えるかどうか検討していきたい。 (岩本委員) 「市や事業者がすすめる」とあるが、食育の取組を行う現場では自分が何をやればいいのかのわかりにくいため、具体的に何をすればよいのかの伝わるような表現が必要だ。例えば、学校給食で食事の作法を教えるにはどんなことをすればよいかの具体例を示すなど、「誰」が「何」をするのかをはっきりと伝わるような表現にした方が良</p>

いし、その方が最終的に目標とする数値も達成しやすいのではないか。

(事務局)

今後2か年をかけて計画を策定していく中で、庁内の関係課とも十分に連携して考えていきたい。

(金子部会長)

計画について議論を進めていくうえで、意見に出たような具体的な例も踏まえて部会でも考えていければ良い。一方で市において、食育については、縦割りではなく横断的な連携を取られていると思うが、その中でより工夫を凝らして取り組んでもらいたい。

(井上委員)

食の安全を考えるシンポジウムの内容等については、これから考えるものと捉えてよいか。現在、食品衛生協会として年2回食中毒キャンペーンなどを行っている。そういった取組と一体化してやっていくのか、また学校などのカリキュラムに取り入れて教育現場などと一緒に取り組むのか、進め方をどう考えているか。

(事務局)

資料に記載している取組について、現時点では例としてイメージをお示ししている段階であるので、実際の内容はご意見をいただきながら一緒に考えていきたい。資料7にあるような、皆様が取り組まれてきた取組も踏まえて、今後の部会で具体的に議論を進めたい。

(井上委員)

学校のカリキュラムに含めるのと、休憩時間に啓発を行うのではできるボリュームが大きく違う。ある程度進め方についての目標がある方が、今後計画、取組内容の議論をしていくにあたってやりやすいのではないか。

(長島委員)

市民や様々な食に関わる方々が、ひと目見てすぐわかるような図であるとよい。自分の環境を当てはめて、自分が何をしなければならないのかがわかりやすく、基本理念が伝わりやすいものになればよい。また、井上委員が先ほどお話されていた授業のカリキュラムに取り入れるということに関してだが、教育現場の状態を考慮すると、率直な感想として実施は正直難しいと思う。だが、だからこそ多方面との繋がりを強化していく中で、できることを進めてもらうことに期待している。そのための手伝いはしたい。

(事務局)

ご意見にあったように、食育に携わる関係者が何を目指し、何をすればよいのかがひと目でわかるものであることが一番良いと思うので、今後も部会委員の皆様のご意見をいただきながら作成していく。また、今現在様々な活動が制限されている教育現場において、どの範囲でどの程度のことができるのかについても、関係課と連携して検討していきたい。

(君塚委員)

取組例で「災害や感染症における健康危機の知識習得」とあるが、この項目は「知

識習得」という表現にとどめてしまってよいのか疑問に思う。他のことに関してはスケジュールを組んでゆっくり考えても良いと思うが、災害や感染症については身の危険がある以上、他の項目に比べて急を要することであるし、コロナなどの影響で市民の皆さんの関心も高い。食育という範囲だけでなく、様々な組織が関わって取り組んでいかなければならないことだとは思いますが、もっとはっきりとした表現の方が良いのではないか。

(事務局)

ご指摘いただいた項目はこれまでの計画に載っていなかったものであるため、まずスタートラインとして知識習得という表現になっており、計画策定までにしっかり考えていきたい。防災については特に市が中心となって取り組む項目だ。

また、区によっては防災と食の関係で既に啓発を行っている。そのような取組について、なるべく全市展開していけるよう進めていきたい。

(長島委員)

「和食」という言葉に以前から違和感がある。伝統食、日本食という言い方にするなど、洋食はよくないと感じさせないような言葉選びが必要。

(金子部会長)

守分委員が日頃行う区での啓発活動で、災害等の取組について何かご経験はないか。

(守分委員)

東日本大震災の後、被災者の経験談を踏まえて、災害時の食に関する活動を始めた。助かった命を、いざという時の食で健康を守りながらつないでいくという啓発を、様々な団体と協力しながら8年ほど進めている。先日も、店舗で実演を伴う啓発を行ったが、ひとつの団体だけで食育を進めるのではなく、様々な団体が連携することが重要だ。

(金子部会長)

これから計画に取り入れる内容は、区で現在行っていることなど、どこでどんな活動がされているのかをよく調べて、うまく連携させたいうえで策定していきたい。委員の皆さんにもご協力をお願いしたい。

(岩本委員)

「おうちごはん」という言葉を初めて聞いたが、一般的なワードなのか、定義があれば教えてもらいたい。または意図があって作られた言葉か。

(事務局)

出典は確認したい。深い意図があるものではない。

(谷中委員)

災害や感染症に関する項目について、情報を得るだけでよいのかというご意見があったが、JA横浜では実際に被災された方を講師に招いてどのような食の確保が必要なのか、どんな調理ができるのかなどといった「防災クッキングセミナー」の開催を予定している。

また、教育現場における取組については、11月の地産地消月間に教育委員会などと協働し、学校給食へ地元野菜を農家のメッセージカードとともにお届けしている。今

日の給食に横浜産野菜が使われていることを校内放送で読み上げてもらうなど、農家の方を直接感じてもらうことを心がけている。

(金子部会長)

様々な取組が行われている委員がそろっているので、うまく情報を共有しながら、第3期計画に取り入れていきたい。

(大久保委員)

食育は、食べ方の作法などを文化として継承することも大切だが、調理、料理の方法についても欠かせないものなので、表記されていると良い。

(飯笹委員)

料理を作る楽しさや喜びを知ってもらうことも大切であり、子どもの頃から経験してもらいたい。ぜひ取り入れてもらいたい。

【議事3】第2期健康横浜21最終報告書案（食生活分野）について<資料5>事務局から資料5について説明

(君塚委員)

議事2の際に、食べるだけでなく調理を含むような項目を盛り込んだらどうかという話が出たように、資料7で委員の皆さんの取組にも食材を採ったり調理したりというような取組が記載されている。資料5-2の報告書では、そういった取組もすべて「食べる」でまとめられているが、次の目標を決めていくために、この取組状況には「収穫体験やお弁当コンクールなどで調理する機会を作った」などといった言葉を入れておくとよいのではないか。

(事務局)

ただいまのご意見は、10ページに記載の関係団体による取組において、子どものころからの取組状況に追加した方がよいという認識で良いか。

(君塚委員)

9ページ、10ページの取組では、行動目標が全て「食べる」となっているが、「食べるようになるための取組」が取組状況の記載としてふさわしい。例えば、「お弁当コンクールを周知した」ではなく、3食しっかり食べるようになるために、調理できることも重要であることから、「コンクールによる調理体験」など、目標とそれに対する行動がうまく伝わる表現にした方がよい。

(谷中委員)

「3食しっかり食べる」という行動目標だが、まず食に興味を持ってもらうことが重要だ。JA横浜では収穫体験や味噌作り体験などを行っているが、食べるまでの過程に関わることは食に興味を持つきっかけとなる。結果的には「しっかり食べる」につながることであり、そこに至る過程の表記も必要ではないか。

(事務局)

行動目標そのものの表現については今回変更を加えることはできないが、今後次期食育推進計画を考えていくうえで、食に関心を持つという点も重要なポイントのひとつと考えるので、ご意見を活かしていきたい。

(大久保委員)

資料5-2の13、14ページのオーラルフレイルに対する取組について、内科では「よく噛んで食べてください」と患者に言うが、そのような「よく噛む」という表現も盛り込んだ方がよいのではないか。

(望月委員)

歯科分野では、口腔内の虚弱、フレイルについて、周知に努めている。よく噛むこともそうだが、嚥下も含めて、日頃から口の周りの筋肉を衰えさせないような健口体操などの啓発も行っているが、なかなか市民に伝わらないことが課題。横浜市と一緒にリーフレットを作成しており、区でもオーラルフレイルに関する研修会等を実施している。関連して、資料5-2の10ページ、「口から食べるを維持する」という行動目標に対する取組で「フレイル」という記載があるが、その部分を「オーラルフレイル」という表現に変えることはできないか。

(事務局)

オーラルフレイルについては歯科分野や今後強化すべき取組のなかに記載しており、今回の食分野については包括的にフレイルと表現している。「口から食べるを維持する」の行動目標からするとオーラルフレイルという記載であっても良いかと思うが、表現については関係課と調整させていただきたい。

(岩本委員)

行動目標は変更できないとのことだが、「3食しっかり食べる」については、「3食しっかり『噛んで』食べる」という表現がよいのではないか。

また、資料7に記載されている各団体の取組について、第2期食育推進計画の推進テーマ、目標に当てはまるものに○◎が記載されているが、数えたところ、地産地消や食事の作り方についての取組が非常に多かった。逆に栄養バランスや朝食欠食などに関する取組が少なかったことから、最終評価報告書の結果と現在の取組の関係性が数値に表れているように感じた。議事2の目標案でも意見があったように、どの団体が具体的にどんな取組をすべきなのかを明示するべきである。子どもの頃からの教育が20代30代になった時にも影響するので、その教育がやはり重要だ。

(事務局)

各団体の取組を目標ごとに集計したものを、後日改めて共有する。また、具体的な取組を明示すべきとのご意見をいただいたが、行政からの一方的な発信だと必ずしも賛同してもらえない。この食育推進検討部会には、行政ではない立場の委員の方々にお集まりいただいているので、どのようなものだと取り組み始めやすいのかなどご提案いただきながら計画に取り入れていきたい。

(長島委員)

「バランスの良い食事」という言葉がハードルを上げている。このハードルを下げる、壁を取り払うことが我々のミッションだと考える。

(守分委員)

食生活等改善推進員は、どの行動目標にも当てはまる啓発活動をしている。今はコロナの影響で集合型での啓発ができないため、いくつかの区では調理実演の動画を配

信するなど、SNSを活用して取り組んでいる状況だが、対面で実際に体験してもらう方が伝わりやすいと思っている。コロナ収束後には改めてそのように活動していきたい。

(岩本委員)

近年は定食でも、できるだけ個に寄り添った食事ができるように、主食等の種類や量が選択できるように工夫されている外食産業もあり、素晴らしい取り組みだと思う。また、栄養バランスのとれた食事を選ぶ力をつけるために、例えば学生食堂や社員食堂でカフェテリア方式を採用し、順にお皿を取っていくことで主食・主菜・副菜を選択できるようにすることが、資料の記載にあるようなナッジにあたるのではないかと考える。最近ではコンビニやデパ地下でも小分けの総菜も増えていて、選択できるようになっていると感じる。ただ、好き嫌いがあると選ぶべきものを選べないので、やはり子どもの頃からの教育が重要である。

【議事4】横浜市における食環境整備の推進について<資料6>
事務局から資料6について説明

(金子部会長)

次期食育推進計画も含め今後の重要なテーマである「食環境整備」について取り上げた議事となる。ぜひ活発な議論をお願いしたい。

(大久保委員)

コロナの影響で中食が進んできて、同時に孤食が目立つようになった。以前は皆が同じものを一緒に食べ、共有し、コミュニケーションをとるのが食文化のひとつであったので、そのようなメッセージも必要だ。

(事務局)

現行の計画、また国の計画でも「共食」という記載がある。「健康に関する市民意識調査」において共に食べる機会があるかという項目があったが、今回良い結果ではなかった。コロナも影響していると受け止めており、次期計画の中でも考えていかなければならない項目だ。

(守分委員)

食生活等改善推進員の活動内容の中に、減塩についての取組がある。家庭での減塩はやりやすいが、外食や中食ではなかなか難しく、企業の考えや協力がないと減塩は進まないと思う。

(事務局)

具体的な取組内容まではまだ定まっていないが、食事を提供される事業者のお力なしでは進められない、難しい課題だと捉えている。それも含めて次期計画の策定に向けて皆様と考えていきたい。

(岩本委員)

若い人を中心に、ファストフードや辛い料理などを好んで食べることから味覚が鈍くなっている気がしている。子どもの頃は学校給食で、出汁をうまく活用し、塩分に配慮して作られた食事を食べていたはずなので、外食や中食でも出汁を使ったやさしい味などを提供してほしい。

(大久保委員)

日本のうまみ文化は、減塩と引き離せない重要なものだ。減塩というだけでなく、うまみについてもあわせてメッセージとして取り込んでほしい。それが若い人にもうまく伝えられると良い。

(望月(悟)委員)

高齢になるにつれ、舌の味蕾が少なくなっていくので、無意識に塩分が強くなってしまう。若者だけでなく、高齢者の取組も必要だ。

(金子(勝)委員)

学校給食では、3食のうちの1食という限られた提供数のなかではあるが、熱量や栄養素、塩分などについて厳格な計算をして、日々献立を用意している。環境的アプローチという認知を経由しない仕掛けが非常に有効であることは確かだと思うが、やはり教育的アプローチは欠かせない。学校を卒業した後も、栄養などを意識しながら食べることを楽しむということにつながるように、教育的アプローチと環境的アプローチの連動性が重要だと思うので、今後の検討の中でそういった視点を大切にしてもらいたい。

(長島委員)

早く「共に食べる」ことができる日がくると良い。共に食べることは、味覚の違いや、宗教上の食べ物の違いなど、食に関する様々な学びの場でもある。子どもから大人まで、食を通じて広い意味での豊かさを育てるようになってほしい。

(植木委員)

自身の団体では、地域の居場所づくりに関する活動をしており、その中で食に関する取組もずっと続けてきている。食育をすすめるには、「食事をつくる」ことがスタートであるが、その「食事をつくる」段階のハードルが高いと、子育て世代には苦しくなってしまうと日々感じている。今までの議論や現行計画に対する取組などから、子育て世代が少し置き去りになっているように感じた。子育て世代、ひとり親家庭などに向けた取組を行っている団体もたくさんあるので、そういったところとも連携していけるとよい。

(望月(選)委員)

スポーツの観点から、体を動かしてお腹が空いて、ご飯を食べる意欲がわくという取組を引き続き行っていきたい。

(谷中委員)

横浜市内でも買い物難民が多くいるということを受けて、JA横浜では移動販売車を購入した。今後はそういった方々にもきちんと食事をとっていただくために活動をしていく。そのような視点も今後取組として取り入れていただきたい。

(金子部会長)

貴重なご意見をたくさんいただいた。「食育」はかなり幅が広いが、事務局でうまく整理してもらいたい。その中で、食環境については「食環境整備検討会」で具体的に議論をしていくが、その他の幅広い食育に関する事項については、食育推進検討部会で引き続き議論していくので、委員の皆様にも今後とも協力をお願いしたい。

5 その他	【その他】今後のスケジュールについて 事務局から説明
6 閉会	